



榴ヶ岡

(公財) 仙台ひと・まち交流財団

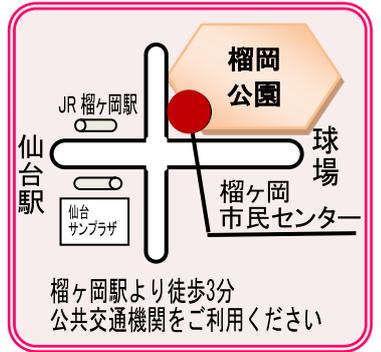
令和2年7月1日発行

市民センターだより 7月号

〒983-0842 仙台市宮城野区五輪 1-3-1
TEL 299-5666 FAX 299-5690

仙台市榴ヶ岡市民センターで検索または

<http://www.sendai-shimincenter.jp/miyagino/tsutsujigaoka/index.html>



榴ヶ岡市民センター主催事業の紹介

今回は「榴岡寺子屋」です。

平成28年度「榴岡地区エキサイティング事業」という名称で開催し、昨年度から講座名を「榴岡寺子屋」に変更しました。この講座は、企画の段階から地域の方々が参加し講座の企画から運営までを市民センター職員と共に行います。現在講座の企画という重要な部分を「榴岡地区エキサイティング事業」実行委員会が担い、今回はその実行委員長の及川勇さんからコメントをいただきました。

日本では古代以来疫病が日本に入ってきて大きな被害をもたらしたことが幾度もあります。

最初に流行したのは平城京(735~738)、西日本から畿内にかけて大流行した天然痘です。これをきっかけに、物部氏と蘇我氏の対立となり、大化の改新へとつながります。その後天平時代に大流行し、国の総人口の25%~35%、100万~150万人が死亡します。聖武天皇は東大寺を創建し、全国に国分僧寺、国分尼寺を造らせ、国家安寧をはかります。

安政五年コレラ(ころり)が流行します。ペリー艦隊に属する米国艦船ミシシッピー号が長崎に入った際、乗務員にコレラ患者が出ており、それが江戸まで広がり大きな被害をもたらします。それが攘夷思想の勃興の原因の一つといえます。我々は今大きな歴史の転換点に立っているのかも知れません。

榴岡地区エキサイティング事業は、歴史、防災、福祉の三本柱で進めてまいりましたが、今回の新型コロナウイルスは日本の2000年の歴史を振り返り、社会のありかた、日常の生活に大きな変化をもたらすかもしれません。

私たちは、主催事業「榴岡寺子屋」を通して魅力ある街づくりや地域の活性化を目指します。

今年度の事業については榴ヶ岡市民センターまでお問い合わせください。

7月の休館日

6日(月)、13日(月)、
20日(月)、27日(月)

※体育館の個人使用につきましては、市民センターまでお問い合わせください。

※市民センターでいただいた個人情報は、目的以外には使用いたしません。用紙はリサイクルできます。

榴岡公園の花たち①

ヤマボウシ

センター北側に4本のヤマボウシの木があります。梅雨期に開花を楽しめる庭木として人気です。花は、中央の小さい球状の部分で、花に見える白い部分は総苞片そうほうぺんという葉状のさくです。球状の花を総苞片の頭巾でまとった僧侶にみて、山法師と名付けられたそうです。外見は花なのに花ではない、同じようなことが世の中にたくさんあるような気がします。本質を見失わない観察力の大事さをヤマボウシから学びました。



館長

🌸 花言葉：「友情」



6月上旬撮影

榴岡公園の花たち②

タイサンボク

歴史民俗資料館の入り口に、ひときわ目立つ大輪で純白の花が咲いています。北米原産のタイサンボクです。その大輪の花が天を仰ぐように咲いている様から、花言葉は「前途洋々」です。しかし、その前途洋々の花の命は数日で終わり、開花と落花が同時に行われます。一瞬一瞬をしっかりと生きなければ……。また、新たな気づきをいただきました。感謝！



館長



つぼみ



開花



枯れ

6月上旬撮影